

## 情 報 公 開 文 書

研究の名称	がん支持療法としての漢方薬の有用性の検討 －咽喉頭がん放射線療法に伴う粘膜炎症性咽喉頭痛を対象として
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	腫瘍内科・緩和ケア内科 講師 梶浦 新也
研究の概要	<p><b>【研究対象者】</b>            当院にて咽喉頭がんに対して放射線療法が施行され粘膜炎症性咽喉頭痛を発症し桔梗湯（漢方薬）が処方された方</p> <p><b>【研究の目的・意義】</b>            咽喉頭がんに対する放射線療法ではほぼ全例で咽喉頭部の粘膜炎症性疼痛を発症するが、既存の鎮痛薬での対応では効果不十分なことが多い。本研究の目的は急性期咽喉頭痛の鎮痛効果を有するとされる漢方薬の桔梗湯の有効性を示すことである。先行研究は2症例を対象とした1報告のみであり、必要十分な症例数での有効性を示す本研究は実施する意義がある。当該症例において桔梗湯が汎用されることで、併用鎮痛薬使用量の減量、QOLの改善、入院期間の短縮につながることが期待され、本研究の実施意義は大きい。</p> <p><b>【研究の方法】</b>            後ろ向き観察研究；咽喉頭がんに対する放射線治療中に、治療による粘膜炎およびそれに伴う咽頭痛・嚥下時痛を発症し、症状緩和目的に桔梗湯（漢方薬）が投与された症例について、カルテ情報を元に後ろ向きに調査する。</p> <p><b>【研究期間】</b>            倫理審査委員会承認から 2026年10月31日まで</p> <p><b>【利益相反の状況】</b>            本研究に関係する企業等の間に利益相反はない。</p> <p><b>【研究結果の公表の方法】</b>            研究結果は日本緩和医療学会学術大会などの関連する学会で発表する。また臨床腫瘍学会誌などの国際的な英文誌に投稿して公表する。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	情報の項目としては、年齢、性別、診療科、薬事開始時の外来/入院区分、原疾患、処方量、処方/処方中止理由、薬剤師介入の有無、手術の既往、合併症、併用薬、血算・生化学検査など。利用方法としては統計的に解析して処方状況を調査研究する。他機関への情報提供無し。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び機関の長の職名・氏名	富山大学附属病院 院長 山本 善裕
研究資料の開示	研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究代表機関における研究責任者の所属・氏名）	情報の管理責任者：富山大学附属病院腫瘍内科・緩和ケア内科教授 林龍二 研究責任者：富山大学附属病院腫瘍内科・緩和ケア内科講師 梶浦 新也
研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話:076-434-7808 FAX:076-434-5112 E-mail:d12433@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名：富山大学附属病院腫瘍内科緩和ケア内科 梶浦新也

